

## 将来都市像の考え方

- ①子どもがたくさんいて、高齢者が元気に暮らしている。
- ②市内外の多くの人がこの地域に目を向けて、様々な活動に参加している人がいて、地域が盛り上がっている。
- ③柏のまちからは、「とても元気」という印象を受ける。
- ④各地域の住んでいる人や、地域資源の特性や魅力が活かされたまちになっている。

## 総合計画審議会委員のご意見

- ・ 柏は日本の課題の一部を背負ってきており、うまく解決し、他地域に還元するくらいの位置づけで考えればよい。
- ・ 上記①の「高齢者が元気に暮らしている」は、「高齢者が安心して暮らしている」にした方がよい。
- ・ つながり、交流することで新しい価値を創造し、新しい時代・課題に適応することが重要。
- ・ 暮らしだけでなく、働くにも良い環境という視点も必要。
- ・ スマートシティを抱えている先進性をアピール。
- ・ 高齢者の持つ豊富な知識・経験を活かし地域の子供を育てる等の生きがいづくりが、地域の活性化力、教育力の向上につながるため、「地域力」の要素が重要。
- ・ 少ない予算でいかに幸せに暮らせるかが重要。
- ・ 市外からの流入を図っていくことは必要。転入したいまちが重点目標になるのではないか。
- ・ 柏には多様な魅力があることも特徴であり、「多様性」という要素が重要。
- ・ 別々に見えても切り分けるのではなくつなげ、結び付けていくことが重要。
- ・ 柏の特徴として、市内で特性に違いがある。
- ・ 少子化により、文化や伝統がなくなっていくことから、少子化対策は重要。
- ・ 急速な高齢化により、高齢化対策が重要。
- ・ 東京から30km圏で市域の15%が緑のまちは他になく、柏の大きな特徴であり、これを大切にすることも柏らしさに繋がる。
- ・ 「元気」もよいが、「落ち着いた」まちの視点も重要。
- ・ その子らしく育つことができる地域づくりが重要。

誇りを育む知恵と豊かな自然が共生し、  
笑顔と元気が輪となり広がる先進住環境都市  
〜未来に持続する中枢交流拠点・柏〜

次頁参照

案

コンセプト

【①都市の特徴を示す】

誇りを育む知恵と豊かな自然が共生し、

【②住まう人々の様子を示す】

笑顔と元気が輪となり広がる

【③10年後の都市像を示す】

先進住環境都市

【④10年後以降の中長期的な方向性も見据える】

～未来に持続する中枢交流拠点・柏～

【コンセプト】

市民と共有できる都市像とするため、市民ワールドカフェや審議会委員の皆様からのご意見を活用させて頂き、見据えるべき課題との相関関係にも配慮して導出。

【①都市の特徴示す】パート

- ・誇り＝柏で知恵を身につけたこと、そしてその知恵を活かし様々な分野の担い手となることを誇りに思うこと。さらに、個々人の持つ様々な誇り、地域愛などを示す。
- ・知恵＝知育、徳育、体育などから得られる知恵だけでなく、文化・伝統・先人の知恵から得られる知恵なども含む。
- ・豊かな自然＝柏の特性である豊かな自然を示す。
- ・共生＝知恵と自然が共に存在する様子を示す。

【②住まう人々の様子を示す】パート

- ・笑顔＝少子高齢化の克服を人々の「笑顔」に集約。
- ・元気＝少子高齢化やその他の課題を克服を人々やまちの「元気」に集約。
- ・輪となり＝「繋がり」を「輪」と表現。「輪」となること自体が「地域力向上」を示す。
- ・広がる＝課題を克服する様子（地域力）が、柏全体に行きわたっている様子を示す。

【③10年後の姿を示す】パート

- ・先進住環境都市＝一歩先を行く住環境都市を表現（＝定住人口増）。ベッドタウンの特性から、税収に占める個人市民税等の割合が高いことは、10年後も大きく変わらないと想定されるため、まず定住人口増をイメージする表現を置く。さらに、本市における先進的な取組などをイメージし、「先進」と冠した。

【④10年後以降の中長期的な方向性も見据える】パート

- ・未来に持続：10年後から人口減少が想定されるなか、10年後もその先も、持続する自治体を目指す。
- ・中枢交流拠点：定住人口増だけでなく、交流人口増や吸引力UPの点でも、柏市は重要な中心的存在であることを示す。なお、一つの市で多様性を持つこと自体は、柏の長所と捉え、複数の都市像があっても良しとし、「住環境+α」の魅力がこのパートで示すこととした。

# 将来都市像と重点目標 3基本的な目標(重点目標)とその導出①

## 基本的な目標(重点目標)の考え方

- ・将来人口推計から見た本市の急激な少子高齢化を踏まえ、持続可能かつ活力を維持するまちづくりを進めるためには、子育て世代を中心とする生産年齢人口の維持・定着と、出生率の向上による人口構成バランスの保持が必要となる。
- ・子育て環境・教育環境・生活環境等を整備することで、子どもにとっても親にとっても、より魅力あるまちへ。
- ・特に教育にあっては、10年先だけではなく、その先の将来を見越した持続可能なまちづくりを左右する要因と考える。
- ・全国的に人口減少が進む中にあるには、他都市と競争し人口を奪い合ってまで人口増を目指すのではなく、市民の子々孫々までの定着による人口維持・増加や出生率低下の克服を目指す。
- ・長年働き、社会経済を支えてきた高齢者が、元気にセカンドライフを楽しむと同時に、社会活動の一端を担うことで生きがいと充実感を得られる環境が必要。
- ・誰もが高齢者になることから、環境づくりとともに生涯に渡って「健康寿命」の延伸を図る仕組みをつくることが重要。

## 総合計画審議会委員のご意見

- ・まちに求めることは心豊かに暮らせることであり、安心・安全・のんびりといったもの。
- ・高齢者の持つ豊富な知識・経験を活かし地域の子供を育てる等の生きがいづくりが、地域の活性化、教育力の向上につながる。
- ・「安全」「安心」「健康」といった前向きの表現を盛り込んでもらいたい。
- ・中年男性の自殺が多いことから、高齢者だけではなく中年男性が生きがいをもって元気に暮らせることも重要。
- ・「健康」「健康づくり」は重要。人口を減らさないよう、子供の頃から健康づくりに努力し、住んでいる人は皆健康なまちであることが理想。
- ・子育てしやすいだけでなく、子供が「産める」という視点も重要。
- ・子供が減ると、文化や伝統がつながっていかなくなり、無くなることから、少子化対策は重要。
- ・(元気がない)高齢者への対応は重要。
- ・最大の問題は急速な高齢化であり、対策が重要。
- ・子育て、高齢者対策が重要。転入したいまちや、健全財政が重点目標になるのではないか。

るまち  
① 充実した教育を実感しながら、子供を安心して産み育てられ

② 健康寿命を伸ばし、いつまでもいきいきと暮らせるまち

# 将来都市像と重点目標 4基本的な目標(重点目標)とその導出②

## 基本的な目標 (重点目標) の考え方

- ・ 市内外の子どもから高齢者にいたるまで、多くの人を楽しめる魅力があり、人や企業が集う、県北西部を牽引するまちを目指す。
- ・ 地域資源の特性や魅力を活かし、まちの賑わいと相乗効果により、交流人口及び来街者増加による活性化するまちづくりを進める。
- ・ 人が行き交うだけでなく、定住人口及び消費行動の増加につなげるためには、まちの個性を確立し、柏を選ぶという行動に到達させる。

## 総合計画審議会委員のご意見

- ・ 先鋭的なことをやるという意味ではなく、個々に立てているものに横串をさして取り組むことが重要。
- ・ それぞれの課題や目標等は、お互いに影響しあうのに分断・独立して考えてきている。一見別々に見えても切り分けるのではなくつなげ、結び付けていくことが重要。それによって全く新しい面白いものが生まれてくる。
- ・ 柏には多様な魅力があることも特徴であり、「多様性」という要素も入れられないか。
- ・ 柏はずっと人を集めるためにいろいろ取り組んできた。
- ・ 時代や意識の変化に柔軟に対応し、守るばかりでなく新しい価値観を打ち出し、横串でイノベーションしていくまち。



③地域の魅力や特性が光り輝く、活力あふれるまち